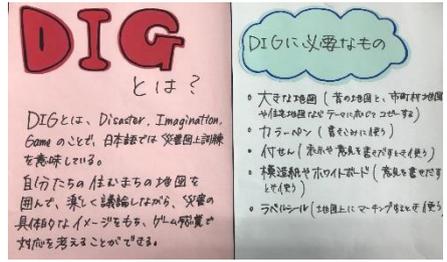


令和5年度 高校生防災アクション 実施報告書

学校名	岐阜県立大垣南高等学校
テーマ	「総合的な探究の時間」での探究学習を中心として、平時から地域（地元）とのつながりを持ち、緊急時には自校のみならず他校の高校生とも協力しながら、避難所運営に積極的に協力できる高校生になる。
1 目標	<ul style="list-style-type: none">◎地域（地元）とのつながりをもつ。◎自校のみならず他校の高校生とも協力する。◎避難所運営に積極的に協力できる高校生になる。
2 自校で取り組んだこと〈誰と（誰に）、何をしたかを具体的に〉	<p>◎総合的な探究の時間の「防災・街づくり」班での活動を中心とする。</p> <p>【海津チーム】</p> <ul style="list-style-type: none">・災害図上訓練（DIG）を体験した。・海津市での平時から地域との連携や顔の見える関係を大切にしなが、災害時に自分たち（高校生）に何ができるかを考えた。その際、地域の高校生や各家庭での会話やネットワークづくりを行った。  <p>【栄養チーム】</p> <ul style="list-style-type: none">・全国の避難所の食生活の現状を調べた。・栄養バランスの良い食事とは、どんな食事なのかを調べた。・普段と同じような、温かく柔らかい食事を簡易的に作る方法を探究した。・パッククッキングなどの各手法を実践しながら、避難所で実際に調理できるかどうかを検証した。 <p>⇒以上の実践を文化祭で発表した。全校生徒と保護者および職員に「保存食を組み合わせることで、災害時にも温かく栄養のあるものが食べられる」ことを提案した。</p> <p>【福祉チーム】</p> <ul style="list-style-type: none">・避難所運営ゲーム（HUG）を体験した。・高齢者福祉の観点から避難所での災害関連死を防ぐための方法を探究した。 <p>⇒以上の実践を文化祭で発表した。全校生徒と保護者および職員に「避難所とはどのような場所なのか」を知っていただくための活動をした。</p> <p>【デザインチーム】</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者、外国人など、避難所にいる誰にとっても「分かりやすい」表示を考えた。ピクトグラムの提案や文字の記し方の工夫をし、実際に避難所でも使えるような掲示物の考案をした。・配色を変えたピクトグラムを作成し、「分かりやすさ」の検証をした。  <p>⇒以上の実践を文化祭で発表した。全校生徒と保護者および職員に「海外特有の標識を用いたクイズを作り、色や形に対する認知は各国多様であること」を訴えかけた。</p> <p>【教育チーム】</p> <ul style="list-style-type: none">・避難所運営ゲーム（HUG）を地元である揖斐川中学校で体験した。中学生と協力しながら、学校が避難所となった場合の避難者の配置や、救援物資の配布手順を考えた。 <p>【全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none">・視聴覚教材（木曾三川災害に備えた人の知恵、輪中と水屋）を活用し、全校生徒に「ふるさとの良さを感じながら、災害と立ち向かってきた歴史」を知ってもらえた。

(別紙2)

<p>3 自校で取り組んでいく際にあった困難とその解決に向けて努力や工夫したこと</p> <p>今年度は、主に総合的な探究の時間での活動を想定した。授業時間内に、地域の方々や他校の高校生と交流することは非常に困難であった。そのため、休日の海津市防災士会の講習会やNPO法人カタリバが主催する全国高校生マイプロジェクトへの応募・参加を促して、学校の授業時間内だけでなく、課外活動で生徒が地域や他の大人、専門家とつながりをもてるように工夫した。</p>
<p>4 目標に対する成果</p> <p>・減災力テスト（対象2年：10名）</p> <p>1回目 平均点55.1点 ⇒ 2回目 平均点72.1点</p>
<p>5 目標に対する今後の課題</p> <p>平時から地域（地元）とのつながりをもつためには、まずは生徒が各家庭で保護者の方と共に災害について話すきっかけをもつことが重要である。文化祭での取組みは保護者の方限定ではあったものの地域（地元）とのつながりをもつことができた。大垣市や海津市に住んでいる学校評議員の方からは、ハザードマップをもとに水害時の行動に関するご意見や質問をいただき、生徒にとって自分たちの活動が校内だけで終わることなく、外部へと広がり、繋がっていくのだということを知るきっかけとなった。揖斐川中学校でのHUG（避難所運営ゲーム）体験に本校3名の生徒が参加をすることができた。これは、平時から同じ揖斐川町出身の中高生が「避難所運営」をキーワードとして協力した大変貴重な機会であった。</p> <p>「防災」という大きなテーマの中に、「デザイン」や「栄養」といったサブテーマを与えることによって、各自の進路希望を関連付けることができ、「防災」をより自分事として考え、外部に発信することができた。しかしながら、デザインチームは作成したピクトグラムの有意性をアンケートなどによって評価する所までは至らなかった。栄養チームは調理したメニューを大垣市の管理栄養士の方や学校給食センターの方に提案し、評価していただく所までは至らなかった。今後は、1つでも多くの自分事としての実践と、第三者からの客観的な評価や指摘に耐えうるようなデータの集積が求められる。</p>
<p>6 自校における来年度の取組（本年度の学びをどのように引き継ぐか、または深めるか。）</p> <p>今年度に築くことができた地域（地元）との関係を学校として保ち続けることで更なる連携が可能になると考える。避難所運営の観点から考えると、本校が避難所として開設される前に指定緊急避難所である「江東小学校」や「江並中学校」での避難所運営が始まると考えられる。地元防災士会の方に助言をいただきながら、これらの小中学校の児童生徒と本校生徒が協力して避難所開設訓練を行うなどの試みは、非常に有意義ではないかと考えられる。段ボールベットや簡易トイレの組み立ては、児童生徒でも簡単に行うことができ、避難所運営に大きく貢献できる。このような連携を行うことで、登校後に発災した場合の想定と対応ができると考える。</p> <p>今回は「デザイン」や「栄養」などのサブテーマを設定した。「防災」という大きなテーマの中には他にもたくさんのサブテーマが存在する。例えば「外国人防災」、「建築」、「災害看護」、「防災教育」、「ペット防災」、「宝暦治水」など、その範囲は文理問わず多岐にわたる。最初に「防災」を選択する生徒が抱く印象は、土木工事のような「ハードな防災」が多い。しかし探究活動を進めて行く中で、人と人とのつながりが生まれ、地域（地元）のネットワークへの参入につながった。避難所運営などの「ソフトな防災」を考えることの楽しさと大切さを多くの生徒が実感した。これからも「総合的な探究の時間」で、一人ひとりの生徒の興味関心や進路希望を十分に聴きつつ、自ずと湧き出る問いを救い上げ、人との関わりにつなげられるような防災アクションを実施していきたい。</p>